7/13(月)企業見学会＆交流会 in 鹿角

株式会社浅利佐助商店様

創業明治５年の１５４年企業。
原材料から麹造り、仕込み、製品までの**完全一貫製造**しているところは非常に少なく、（全体の１％）
材料も秋田県産大豆、あきたこまち、比内地鶏認証承認取得、八幡平伏流水を使用する等、
１００年をこえる伝統を継承した**こだわりのものづくり。**

他ではあまりみられない　こだわり

- 大豆、小麦の他に、米（あきたこまち）を使った醤油
- 醤油製造とみそ製造の工場を隣り合わせに設置⇒４メートルの通路を挟むことで実現
- 大豆を蒸して圧縮する機械（当時２億円　現在では４億円以上）で一貫生産が可能
- 電動移動棚をいち早く取り入れ、1/3 のスペースの倉庫でらくらく在庫管理
- 全国から依頼される OEM 商品も多数製造
- お金をかけて廃棄していた「搾りかす」を養豚農家等に「エサ」として無償で提供



当時は珍しい**電動棚**をいち早く導入し、在庫管理から出荷までの作業が劇的に楽に！
これにしなければ3倍の大きさの倉庫が必要だった。



今なら
４億円？！！

大豆を蒸して圧縮する機械を持っているのは数社（当時で2億円！）
これがあるから一貫生産ができるのです。

全部においが違う



コポコポ
発酵してる



実は浅利佐助ブランド？
一貫生産の強みでオーダーメイドが可能になり、ＯＥＭで全国各地から注文を受け作っています。
職人技に頼る部分も、できるだけばらつきのない標準化で製造しています。

私たち💛親子です)^o^(



見学のご案内を頂いた
佐藤工場長と、参加企業Ｔ社の佐藤さん。
なんと親子だそうです！
初めてのお父様の職場体験(？)
照れながらもお二人とも嬉しそう♪

お金をかけて**廃棄していた「搾りかす」**
養豚農家などに無償で提供することで循環型社会への貢献をしているというご説明を受けて、
『それなら、うちに売って欲しい！』
と、参加企業Ｎ社の代表からお申し出があり、
「後日商談しましょう」という嬉しい生・商談に発展。

いらないもの、お金のかかるもの、
それが、誰かにとっては必要なもの

そんな出会いの場を提供できました

株式会社柳澤鉄工所　様



秋田の TV で放映されたビデオで概要説明
柳澤社長のインタビュー映像で
楽しくお話しを伺いました。

１００年の歴史に刻まれた技

創立大正１０年の１０５年企業。
鉱山に関連した鉄工工事、機械設置工事の請負を目的に創立して１０５年。
鉱山が全盛期の頃は、夜中の２時、３時でも、呼び出しがあれば、社員動員で鉱山の仕事を頑張ってこられたそう。
「小さな会社の集まりみたいな会社」と、仰ってましたが、顧客が求めるものを「できない」と断るのではなく、どうにかして要望に応えたい、と社員一丸となって知恵を出し合い、誠実に対応してきたことが「なんでも任せられる」という信頼につながり、長寿企業として今なお発展されているのだと思いました。

福利厚生に力をいれ離職を防ぐ

働きやすい職場環境を整えることで、定着に繋げたいから。
男女ともリニューアルした更衣室は社員にも大好評！
シャワールームはドライヤーまで完備され、汚れや汗を流して帰宅できるのが助かっているそうです。

多彩な人材で技術の伝承と革新
６０歳以上１５人
女性６名中４名が製造
フィリピンからのインターシップを受入れ

介護休暇とキャリア　　充実したサポート
親の介護等で、積み重ねてきたキャリアを諦めることなく、「介護休暇」のお陰で、退職することなくサポートを受けながら復帰に繋げることができたそうです。
子ども一人に対して大学卒業まで手当を支給。



“カイゼン”の実践
５Ｓも徹底され
工場内は本当にキレイでした



環境で難易度が変わる溶接も、スキルに合わせて経験を積んでいきます
資格取得にかかる費用は全額会社が負担

部門ごとの仕事の内容や、社員たちのコメントを子供たちにも分かりやすいように**漫画の会社案内**をつくり、社員採用に繋げています。



質疑応答の時間では、
「子ども手当、予備校生にはどうしている？」
「会社案内の漫画は誰が作ったの？」
など、福利厚生に関することに質問が相次ぎ、経営者の方々にとって**「働きやすい会社」**にすることで、新規採用につなげ、離職を防ぐ、**会社存続の重要な課題**と認識されていることを感じました。

伝承された技術と歴史があれば生き残れるわけではなく、１００年企業が実践されていることからヒントをいただこうという“本気”が伝わってきます。

株式会社かづのパワー　様

2019 年に設立し、「鹿角の電気」として 2020 年 4 月から電気の共有を開始しましたが、1 年経たずに経営が成り立たなくなり第 2 期～第 4 期まで休止していました。
当初の仕入れ契約に基づいて、250 円で仕入、30 円で売っていた、というのですから驚きです。
しかし、そこで諦め、撤退するのではなく、市場価格の変動リスクに対応できる固定価格での仕入れ法を確立し、2022 年 4 月から事業を再開。

今年度・8 期は１８億円の売り上げを出し、9 期は２２億円を目指すまでに軌道に乗せる事ができました。
永田**水力**発電所、大沼**地熱**発電所、大湯発電所、田代平**ウィンド**ファーム、等、豊富な電気供給元を有し、2026 年現在の**電力供給率は３８０％**、その**全てが再エネ**というのは本当に凄いことです。

電気供給のほとんど９０％が水力で、地熱も含め、**常に安定して発電**するため、
バックアップ電源が不要なのが強みとなっていて、
風力や太陽光のみの場合に比べ、**「ベース電気がある」**ことで、病院等の需要に対応できるということですから、災害時等のリスク回避にも大いに貢献してくれます。

代表取締役の髙橋様が仰った『**第一は“地域貢献”**、その次が“利益”』の言葉に
鹿角市、市内金融機関、鹿角工業振興会会員の株主構成で設立した【株式会社かづのパワー】様の
設立趣旨と地域活性化への熱い思いが感じられました。

設立時、たった1名の事務局として苦楽を共にされてきた山本　由実　様から、非常に中身の濃いご説明を受け、参加者も熱心に聞き入っていました。





質疑応答に答えてくださった
取締役の前原　充宏　様
小水力発電についての質問された方と後日、あらためてお話を伺うことになりました。

活発な質疑応答に、関心の高さが窺えます！

小水力発電した電気を買って売電する気はあるかという質問に「あります！」と即答。
風力発電に関わっている企業からは、風力の余分が出た際に買い取ってもらえるか、ＦＩＴの件でアドバイスをいただけるか、等々、質問が相次ぎました。
電力の地産地消で成功されているかづのパワー様に学ばせていただくことだらけの、充実した勉強会となりました。

花輪ばやし祭り展示館　様

花輪ばやしの屋台１２基のうち１基は初代機、１基は、イベント持ち出し用、１０基が各町内の祭り実機。
メンテナンスだけで、1 基につき 2 千万円かかると伺い、皆さんビックリ！！

1基ごとに全部違う！芸術作品ともいえる豪華絢爛な屋台！





初めてお目にかかる笹本市長のご挨拶に大注目でした

開催地を代表して、笹本　鹿角市長から、歓迎のご挨拶を頂戴しました